

■ 2025年度 入試問題分析シート ■

神戸大学

前期日程

科目	数学(文系)
----	--------

総 括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総 論>

今年度も例年通り、80 分 3 問の出題であった。どの大問も、3 つの小問に分かれて出題されているので、取り組みやすい。難易度・分量共標準であり、神戸大学文系の数学としては例年通りである。

<特記事項・トピックス>

今年度は、どの問題も数学Ⅱの分野が含まれた出題であり、数学B(数列)、数学C(ベクトル)からの出題はなかった。数学Ⅱの積分法が、3年連続で出題されなかった。2. で証明問題が3年ぶり(2022年以來)出題された。

<合格への学習対策>

例年、「大問を完答する」ことよりも、「小問を1つずつ解き切る」ことが重要であり、どの小問を取りこぼすか、によって合否が分かれることが多い出題であり、今年度もそうである。難問の出題は避けているので、標準的な問題の演習を通じて、自力で問題を解き切れるような「手が動く」勉強を心がけてほしい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範 囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1.	記述	Ⅱ	微分法	3 次方程式の実数解と 3 次関数のグラフについての問題。(3)では、 $a=0$ のときを別に考えることに気づけば、難しくはない。	やや易
2.	記述	I・Ⅱ	小数部分、不等式の証明	実数 a_n の小数部分についての論証問題。(1)の不等式の証明は、両辺を 2 乗してから差をとると、容易である。(2)では(1)を利用すれば、整数部分がわかるので、それを利用することにより小数部分を求める。(3)は実直に計算しても示せるが、計算量が多く、文系の受験生にとっては難しかったかと思われる。	やや難
3.	記述	A, Ⅱ	確率、三角関数	平面上の点の座標が三角関数で表示され、さいころの目によって点の座標が変わる問題。点A, Bが共に単位円周上の点であることがわかれば、見た目ほど複雑ではない。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を 5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。